

## 第 83 回日本医学会定例評議員会

平成 28 年 2 月 17 日 (水) 於：医師会館小講堂

午後 3 時開会

**議長**(高久史磨日本医学会長) 時間になりましたので、ただ今から第 83 回日本医学会定例評議員会を開催いたします。先生方には、ご多忙のところをご出席いただきまして、ありがとうございます。現在、午後 2 時 55 分の時点で 75 学会、すなわち 60.9%の学会の方がご出席ですので、この評議員会は成立しています。最初に、定例評議員会は毎年 2 月に開催し、学会長が議長となるのが日本医学会規則第 13 条で決まっていますので、私が議長として進行させていただきます。よろしくをお願いいたします。

### 日本医師会長挨拶

**議長**(高久日本医学会長) 初めに、日本医師会の横倉義武会長からご挨拶をお願いします。

**横倉日本医師会長** 皆さん、こんにちは。日本医師会の横倉でございます。

本日は、第 83 回の日本医学会定例評議員会がこのように開催されましたことを、心からお喜びを申し上げる次第であります。

さて、昨年は第 29 回の日本医学会総会関西ということで、京都を中心に開催され、多くの医師会員はじめ医学会の先生方がお集まりいただいて、大成功で終わったということ、心からお喜び申し上げたいと思っております。

さまざまな医療が、少子高齢化等々を踏まえて医療の大転換期に入ってきたということが、よく言われているところであります。ご案内のとおり、今、各地域では病院病棟の機能分化ということで、高度急性期、急性期、また回復期、療養期ということで、4 区分の病棟の届出をしなければいけな

いということで、今、その作業が進んでいるところでありますが、これもひとえに 2025 年、団塊の世代の方々が 75 歳以上になるときを目指して、どのような医療提供体制を築き上げるかということで、今その準備に入ったところであります。

なかなか従来の病院は、皆さん急性期を担っているという思いが強いものでありますから、26 年、27 年と 2 年続けて病棟機能の報告がありましたが、まだまだ急性期偏重の届出が多いという状態です。どうしても今後の高齢化を見据えますと、急性期から回復期、また療養期という部分の病床の配備が全国的にも必要になるわけですから、各医学会の先生方にも、どうぞその点もご理解をいただいたうえで、よろしく願いをしたいと思います。

また、日本医学会と日本医師会は、昨年从高久先生のご指導の下で、さまざまな取り組みをしてまいりました。

1 つには HPV ワクチンの勧奨接種が今止まった状態です。これはいつまでも止めていると、当然のことながら、10 年後、20 年後に先進国の中で、日本だけが子宮頸がんの発症が高くなるという恐れが非常に強いわけですので、きょうの資料の中にも入っているかと思いますが、日本医学会と日本医師会の共同で、この HPV ワクチンのいろいろな副反応が起きた場合の取り扱いの、かかりつけ医に対する、『HPV ワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き』というものを作らせていただいて、日本医師会の会員に配付をしたところです。

このように、医学会と医師会は本当に車の両輪として、さまざまなこの変革する医療に、どう対

## 第 83 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	(連)渡部 幹夫	日本ウイルス学会	倉根 一郎	日本大腸肛門病学会	楠 正人
日本解剖学会	仲嶋 一範	日本麻酔科学会	外 須美夫	日本超音波医学会	(欠)
日本生理学会	(連)赤羽 悟美	日本胸部外科学会	(代)横井 香平	日本動脈硬化学会	(代)木下 誠
日本生化学会	嶋田 一夫	日本脳神経外科学会	(代)川原 信隆	日本東洋医学会	佐藤 弘
日本薬理学会	飯野 正光	日本輸血・細胞治療学会	(欠)	日本小児神経学会	(連)山内 秀雄
日本病理学会	(連)坂元 亨宇	日本医真菌学会	(欠)	日本呼吸器外科学会	奥村明之進
日本癌学会	(欠)	日本農村医学会	(連)羽田 明	日本医学教育学会	(代)鈴木 康之
日本血液学会	三谷 絹子	日本糖尿病学会	植木浩二郎	日本医療情報学会	(連)大原 信
日本細菌学会	(連)八木 淳二	日本矯正医学会	新妻 宏文	日本疫学会	(連)川上 憲人
日本寄生虫学会	(連)小林富美恵	日本神経学会	(欠)	日本集中治療医学会	(連)西村 匡司
日本法医学会	池田 典昭	日本老年医学会	楽木 宏実	日本平滑筋学会	(連)羽生 信義
日本衛生学会	(欠)	日本人類遺伝学会	(連)要 匡	日本臨床薬理学会	渡邊 裕司
日本民族衛生学会	渡辺 知保	日本リハビリテーション		日本神経病理学会	(連)秋山 治彦
日本栄養・食糧学会	近藤 和雄	医学会	水間 正澄	日本脳卒中学会	(代)荒木 信夫
日本温泉気候		日本呼吸器学会	木村 弘	日本高血圧学会	梅村 敏
物理医学会	(連)倉林 均	日本腎臓学会	(欠)	日本臨床細胞学会	青木 大輔
日本内分泌学会	(代)鈴木 眞理	日本リウマチ学会	(欠)	日本透析医学会	新田 孝作
日本内科学会	福田 恵一	日本生体医工学会	佐久間一郎	日本内視鏡外科学会	渡邊 昌彦
日本小児科学会	五十嵐 隆	日本先天異常学会	大谷 浩	日本乳癌学会	(連)津川浩一郎
日本感染症学会	岩田 敏	日本肝臓学会	(連)橋本 悦子	日本肥満学会	(欠)
日本結核病学会	鈴木 公典	日本形成外科学会	(欠)	日本血栓止血学会	(連)鈴木 優子
日本消化器病学会	(代)白鳥 敬子	日本熱帯医学会	狩野 繁之	日本血管外科学会	(代)宮田 哲郎
日本循環器学会	磯部 光章	日本小児外科学会	黒田 達夫	日本レーザー医学会	古川 欣也
日本精神神経学会	(欠)	日本脈管学会	重松 宏	日本臨床腫瘍学会	中川 和彦
日本外科学会	(連)矢永 勝彦	日本周産期・新生児医学会	(欠)	日本呼吸器内視鏡学会	池田 徳彦
日本整形外科学会	(連)山崎 正志	日本人工臓器学会	妙中 義之	日本プライマリ・	
日本産科婦人科学会	藤井 知行	日本免疫学会	松島 綱治	ケア連合学会	(欠)
日本眼科学会	山下 英俊	日本消化器外科学会	瀬戸 泰之	日本手外科学会	三上 容司
日本耳鼻咽喉科学会	小川 郁	日本臨床検査医学会	村田 満	日本脊椎脊髄病学会	持田 譲治
日本皮膚科学会	天谷 雅行	日本核医学会	佐々木雅之	日本緩和医療学会	細川 豊史
日本泌尿器科学会	(連)市川 智彦	日本生殖医学会	(連)久保田俊郎	日本放射線腫瘍学会	(代)根本 建二
日本口腔科学会	丹沢 秀樹	日本救急医学会	(連)横田 裕行	日本臨床スポーツ	
日本医学放射線学会	(代)青木 茂樹	日本心身医学会	野村 忍	医学会	川原 貴
日本保険医学会	清水 功基	日本医療・		日本熱傷学会	(欠)
日本医療機器学会	安原 洋	病院管理学会	井出 義雄	日本小児循環器学会	(連)富田 英
日本ハンセン病学会	畑野研太郎	日本消化器		日本睡眠学会	(代)本多 和樹
日本公衆衛生学会	小林 廉毅	内視鏡学会	(連)河合 隆	日本磁気共鳴医学会	(連)黒田 輝
日本衛生動物学会	関 なおみ	日本癌治療学会	林 隆一	日本肺癌学会	光富 徹哉
日本交通医学会	花岡 一雄	日本移植学会	江川 裕人	日本胃癌学会	(欠)
日本体力医学会	下光 輝一	日本職業・災害医学会	(欠)	日本造血細胞移植学会	(欠)
日本産業衛生学会	(連)柳澤 裕之	日本心臓血管		日本ペイン	
日本気管食道科学会	(連)塩谷 彰浩	外科学会	(連)横山 斉	クリニック学会	小川 節郎
日本アレルギー学会	斎藤 博久	日本リンパ網内系学会	(欠)	日本病態栄養学会	清野 裕
日本化学療法学会	(連)川名 明彦	日本自律神経学会	黒岩 義之		

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席

**役員** 高久会長 清水・岸・寺本・門田各副会長  
 (幹事) 成宮, 大江, 遠山, 池田, 春日, 門脇, 小池, 三嶋, 岩本, 國土, 小西, 高本, 奥村, 稲葉  
 (欠席 宮園, 小川, 森, 里見)

**総会**  
 (第 29 回)：三嶋準備委員長, 平井幹事長  
 (第 30 回)：齋藤会頭, 高橋準備委員長, 村田幹事長

応するかということで努めさせていただいておりますので、どうぞ今後ともよろしく願いまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

議長(高久日本医学会長) 横倉先生、どうもありがとうございます。

### ■議事録署名人

議長(高久日本医学会長) それでは、ただ今から議事に入ります。最初に議事録署名人の選出をしたいと思っております。恒例により、議長の私が指名させていただきますことになっていますので、指名させていただきます。基礎社会系は日本栄養・食糧学会の近藤和雄先生、それから臨床学会は日本結核病学会の鈴木公典先生に議事録署名人をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

### ■次第(議事概要)

議長(高久日本医学会長) 次に本日の議事概要ですが、初めに「第29回日本医学会総会2015関西」終了報告。続きまして、次の第30回日本医学会総会の準備状況について、その後、平成27年の年次報告を行います。その際に、日本医学会の予算についてもご報告をします。

協議事項として、平成28年度の事業計画、日本医学会加盟学会についてお諮りをいたします。また、その後質疑応答の時間を取りまして、日本医学会定例評議員会を終了することになっていますので、よろしくお願いいたします。

### ■日本医学会長挨拶

議長(高久日本医学会長) 私から最初にご挨拶を申し上げます。この定例評議員会は日本医学会の定例評議員会で、現在のところ、平成26年に一般社団法人日本医学会連合が設立いたしましたので、名前が日本医学会連合と日本医学会という2つの形になっていますが、いずれこのような状況は変えていきたいと思っています。本日は日本医学会の評議員会ですので、よろしくご審議のほどをお願いします。

## 第29回日本医学会総会終了報告

議長(高久日本医学会長) それでは初めに、第29回日本医学会総会終了報告を三嶋準備委員長からお願いします。よろしくお願いいたします。

三嶋第29回日本医学会総会準備委員長 準備委員長を拜命しておりました京都大学呼吸器内科の三嶋でございます。「第29回日本医学会総会2015関西」は井村裕夫会頭、本庶 佑副会頭、山岸久一副会頭、平野俊夫副会頭、高井義美副会頭、森洋一副会頭の下、「医学と医療の革新を目指して～健康社会を共に生きるきずなの構築」ということをメインテーマに定めて、関西の12医科大学、そして国立循環器病研究センター、関西二府四県の医師会が主務機関となりまして、関西全体で協力してオール関西として開催いたしました。

総会の基本理念ですが、少子超高齢化社会に突入しつつある今、医師会と国民が職種や世代を乗り越えて、医学、医療が直面している課題について、開かれた議論ができる場を提供したいという思いが込められていました。

また、総会のシンボルマークは人と人の強いきずなを示し、全体として医学と医療の革新を実現する、人の英知と未来の可能性が込められています。

この理念に沿い、メインピックであります学術講演会では、テーマを「医学」「医療」「きずな」の3つに分けて、個々の分科会では議論されることの少ない専門分野横断的な医学・医療の重要課題を広く取り上げまして、「20の柱」として多方面から議論が行われました。

また、開かれた総会ということを目指して、この学術講演会では18の企画を一般市民にも公開し、市民の皆さまと共に議論できる場を設けました。さらに関西地区の16大学から集まった医学、薬学、看護学の学生たちが「医療チーム・学生フォーラム」として3年間にわたって勉学をして、その成果を総会で発表する学生企画も開催いたしました。また、「健康社会を支える医と産業の新しい連携」と題して、幅広く産業界からも参画したシンポジウムを設けました。

学術講演会の参加者は約3万人で、どの会場も大変盛況であり、参加者の皆さまの熱気で溢れかえっていました。この医療関係者でなく、さまざまな分野の皆さま方との、このきずなの構築ということが、健康社会創成への契機となるのではないかと考えております。

展示では、学術展示を国立京都国際会館とみやこめっせの2会場で実施しました。特にみやこめっせの会場では、日本内科学会総会との共同開催といたしました。一般公開展示は「未来EXPO '15～あなたの暮らしと医の博覧会～」をテーマとしまして、次世代を担う子どもたちの春休み期間に合わせて、神戸の国際展示場を中心に開催しました。

4会場の展示のほか、体験型のサイエンスツアーなど、最新の医療・医学や科学に触れていただく機会を提供いたしました。また、文部科学省、厚生労働省、経済産業省の政府関係者からの展示発表による参画も得ることができ、医療関係者、子どもから大人までの一般市民、産業界、自治体、そして政府が一堂に会する場となりました。

医学史展は、「医は意なり一いのちを守る知のあゆみ」をテーマとして、京都大学総合博物館において開催しました。皇太子殿下には開会式のご臨席に続き、医学史展もご覧いただきました。展示期間中の週末には、市民参加セミナー「医学史サロン」として、一般市民や学生向けに医学史にまつわるさまざまなテーマに関する講演会を実施しました。さらに京都国際マンガミュージアムでは、「医師たちのブラックジャック」と題した共催展示も開催し、大阪では「合水堂」の記念碑建立もありました。

学術講演と一般公開の会期が異なることから、これらをつなぐイベントとしまして、9日間にわたって京都劇場など京都駅周辺を中心として「医総会WEEK」を行い、一般市民向けに多彩な内容の講演会シリーズも開催しました。

また、ソーシャルイベントは15種類の種目を実施して、一般の種目は一般市民にも公開して1,500名以上の参加を得ました。

このような企画をすべて合わせますと、合計約

40万人の皆さまにご参加いただき、新たな企画を多く盛り込んだ総会を成功裏に終えることができました。

第30回は日本医学会総会2019中部として、名古屋を中心に中部地区で開催される予定と伺っております。さらなる新機軸を織り込んだ医学会総会として成功されることを祈念しております。

最後に本総会に惜しみないご協力、ご援助を賜りました日本医師会、全国都道府県の医師会、政府、地方自治体、産業界、市民の皆さま、そして分科会の方々をはじめ、関係するすべての皆さまに厚くお礼を申し上げます。終了報告とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

**議長**(高久日本医学会長) 私も参加させていただきましたが、数々のユニークな企画があり、特に「医療チーム・学生フォーラム」などは、若い人がたくさんいて非常に良かったと思います。このように盛大な多くの人が参加する会、第29回をまとめられました井村会頭はじめ三嶋準備委員長、平井幹事、その他副会頭の先生方、準備委員の先生方に、心からお祝いの言葉を申し上げたいと思います。本当にご苦労さまでした。

## 第30回日本医学会総会準備状況

**議長**(高久日本医学会長) それでは引き続き、第30回の日本医学会総会の準備状況を齋藤英彦会頭からお願いします。

**齋藤第30回日本医学会会頭** 名古屋大学の齋藤でございます。2019年は日本医学会総会が始まって第30回目、120周年の節目の年であります。日本医学会総会の開催は日本医学会の主要な事業であるという立場から、ぜひ各分科会の先生方にはご指導、ご協力をお願いしたいと思います。

昨年秋に日本医学会連合に、日本医学会総会あり方委員会が発足して議論を進めております。間もなく各分科会にアンケート調査をお願いいたしますので、ご回答のほうをよろしくお願いしたいと思います。

現在のいちばんの課題は、やはり若い医師、研究者にできるだけ多く参加してもらおうということ

ですが、どうしても若いときというのは、自分の狭い専門分野にのみ興味がある傾向があります。若い人にとっても学際的、横断的な知識というのは非常に有用で重要であるということは分かっていますが、そういうことに接する機会が少ないということが問題であると思います。

そういう意味で、4年に1回の医学会総会を、そのような幅広い知識に接する機会となりますように、各分科会の先生方におかれましては会員の方々に参加をお勧めいただきたいと思ひますし、また臨床系の学会におかれましては、ぜひ専門医、認定医の点数が、医学会総会に参加すると加点になる制度を積極的に進めていただきたいと思ひます。

それでは準備状況につきまして、高橋準備委員長から報告します。

**高橋第30回日本医学会総会準備委員長** 第30回の日本医学会総会の準備委員長を拝命しております名古屋大学医学系研究科長の高橋でございます。準備状況については私のほうから簡単にご説明させていただきたいと思ひます。座って説明させていただきます。第30回は先ほど三嶋先生からもお話があったように、日本医学会総会2019中部という形で、中部8県の医学部と協力して準備を進めていきたいと思ひています。

役員は齋藤英彦先生を会頭に、松尾清一名古屋大学総長、柵木愛知県医師会長はじめ東海4県の大学の学長先生、計8名に副会頭をお願いいたしました。準備委員長は私が担当させていただきました。顧問には横倉日本医師会長をはじめ中部8県の県の医師会長の先生方、それから北陸地方を含む各大学の学長、医学部長の先生方をお願いしているところであります。

それから、総務委員会ははじめ各種委員会の委員長については、愛知県の4大学の主に執行部の先生を中心をお願いして、これから準備を開始したいという状況にあります。

会期についてですけれども、前回のこの会で、学術集会については4月12～14日という提案をさせていただきましたが、その後、医学会本総会の準備委員会、あるいは医師会の先生方とも相談

いたしました結果、配布資料にありますように4月27～29日の土、日、月で、これは連休になります。より多くの方が参加しやすい日程ということで、学術集会については4月27、28、29日という3連休を使って開催をさせていただきたいということです。その他の学術展示、公開展示等の日程を3ページの下「会期」のところに記載しております。

会場につきましては、学術集会、学術展示は名古屋国際会議場を中心に開催させていただきたいと思ひますし、市民向け等の公開展示については名古屋港近くのポートメッセなごやという展示場で開催する予定です。

主務機関は先ほどご紹介したように、中部8県の医学部、医師会の先生方を中心に協力して進めていきたいと。

メインテーマとしては「医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」というメインテーマを掲げまして、現在、基本構想をほぼ作成しつつありまして、まず大きな4つの柱を掲げております。

時間がありませんので、ここではご説明いたしません。そのうちの1つは「グローバル化する日本の医療」ということで、医学会総会では今までなかなか国際化について取り扱ってはきていないところでありますが、30回総会では、やはりグローバル化ということで、医療の国際化についても少し取り上げて、プログラムを組んでいきたいということです。

それからもう1点、これは今までの総会でも行われているように、分科会の分野横断的なプログラムを組んで、できるだけ俯瞰的に今の医学・医療の問題点を勉強できるようなプログラムを組んでいきたいと思ひています。

これからプログラムの具体的な立案について本格的に準備を進めていきたいと思ひしておりますので、ぜひ分科会の先生方にも、これからいろいろなご意見や、いろいろなご指導をいただくことが多くなると思ひますので、ぜひよろしく願いいたします。

30回という記念の大会が良い会になるように

頑張りたいと思いますので、ぜひご支援のほどを  
よろしくお願いたします。

以上でございます。

議長(高久日本医学会長) 学会の日程の変更につ  
きましては、先ほど開かれました幹事会でもお  
認めいただきましたので、4月27~29日の3日  
間にわたって、学術展示、学術集會が開かれます。  
多くの方々のご参加をお願いします。どうもあり  
がとうございました。

## 2015(平成27)年度日本医学会年次報告

それでは次に、平成27年度の年次報告に移り  
ます。お手元の資料をご覧になりながらお聞きい  
ただきます。まず4ページ、日本医学会幹事会。  
これは先ほど、この会館の中で2時から開催しま  
して、その中で「平成27年度日本医学会年次報  
告」、「平成28年度の事業計画」、「新規加盟学  
会」について幹事会で諮りいただきました。この件  
につきましては、これから随時この評議員会でご  
審議をお願いします。

27年度の事業年次報告ですが、5ページの3は  
この評議員会で、年次報告と事業計画、加盟につ  
いて、これからご審議いただきます。

日本医学会シンポジウムは2回開きまして、1  
回目が昨年6月4日で、「わが国の高齢者医療を  
めぐる諸問題」をテーマとして234名の方の参加  
をいただきました。第2回目を昨年の12月24日  
に開催し、「新しいがん免疫療法」がテーマでした  
が、このテーマは現在トピックスになっています  
ので、申し込む方も非常に多く336名という、日  
本医学会シンポジウムとしては最も多い参加数で  
した。

日本医学会シンポジウムに関しましては従来か  
らシンポジウム企画委員会で企画していきま  
し、委員会は間野教授、坂元教授、小室教授、吉野教  
授、武林教授の5名で構成されており、シンポジ  
ウムの基本方針、テーマおよび組織委員について  
企画を行っています。また、このシンポジウムは  
DVDに撮っており、演者の方々にはあらかじめご  
承を得て、問題のあるスライドは削除していただ  
き、出来上がったDVDを関係各位に謹呈をして

います。

また、このDVDは日本医学会ホームページの  
「Onlineライブラリー」の項で映像配信をしてい  
ますので、興味のある方はご覧になっていただ  
ければと思います。また、日本医学会のシンポジ  
ウムの要旨は『日本医師会雑誌』に掲載されま  
す。平成27年の10月号と28年の3月号に掲載さ  
れる予定です。

次の、日本医学会公開フォーラムは、従来シン  
ポジウムだけだったのですが、医療関係の方々だ  
けではなく一般の方に医療・医学の問題点を知  
っていただきたいということで、一般市民向けに公  
開フォーラムを始めました。テーマをがんや生活  
習慣病、精神疾患などに絞り、一般の方に参加を  
呼びかけてきました。年2回開催しており、昨年  
の7月4日は「前立腺がん」で、参加者が218  
名。組織委員長は大阪大学の野々村先生にお願  
いいたしました。それから、もう1つのテーマは、  
「胃がん—ここまで進んだ診断と治療—」で、浜松  
医科大学の今野先生に組織委員長をお願いし、参  
加者は201名でした。公開フォーラムと言いま  
しても、半分以上は医療関係の方の参加あり、一  
般の方ももちろん参加されておられます。その点  
がシンポジウムと違っているところです。

この公開フォーラムは、日本医学会公開フォー  
ラム企画委員会で企画をして、テーマと組織委員  
長を決めさせていただいています。

次に8ページをご覧ください。先ほどのシンポジ  
ウムと同様に、公開フォーラムもDVDとホーム  
ページで配信をしていますので、ご覧になってい  
ただければと思います。

次に6番目の日本医学会医学用語管理委員会。  
この委員会は各学会の分科会の用語委員会の中  
から一部の方に用語管理委員になっていただい  
ています。委員長は医学中央雑誌刊行会理事長の  
脊山先生で、副委員長が東京大学の大江先生。8  
ページに示していますように11名の委員で構成  
されており、3回の用語管理委員会を開きました。  
用語管理委員会は、従来は南山堂から医学用語  
辞典を出版していましたが、残りが全部売り切  
れたので、現在はオンラインだけで公開しています。

各分科会で少しずつ用語が違ってきますので、その調整なども用語管理委員会で行っています。

さらに国家試験やICD-10で使用される用語や、厚生労働省の難病検討委員会などで使われる用語も、できるだけ日本医学会の用語に従って使用してほしいと要望してきました。医師国家試験につきましては、日本医学会の用語辞典を基本として出題をすることになっていきますし、ICD-10につきましても、医学会の用語辞典を参照するということがだんだん普及してきて、日本医学会の用語辞典が、日本の医学における医学用語のスタンダードになると期待しています。また、委員の先生方は随時新しい用語の採用や、各学会間の用語の相違の調整を積極的に行っています。

次に9ページの日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会。日本医師会の医学賞と医学研究奨励賞を従来から日本医学会が委任されて選考を行ってきました。昨年は9月2日に開催いたしました。

医学賞・医学研究奨励賞選考委員会には特例委員として5名の各専門の先生方に加わっていただきまして、9ページの下にありますように、医学賞は4名の方、医学研究奨励賞は15名の方が選考され、昨年の11月1日の日本医師会設立記念医学大会において表彰されました。

その際、医学賞受賞者の方々からは研究の発表をしていただきまして、論文が『日本医師会雑誌』に掲載されています。

次に11ページの日本医学会加盟検討委員会ですが、久道先生に委員長を務めていただいています。平成27年度は5月15日に新規加盟申請の公示をし、7月31日に締め切りましたところ、28の学会から加盟の申請がありました。13名の日本医学会加盟検討委員会の委員により書面審査を経た後、11月13日に加盟検討委員会が開催されました。その結果、お手元に配付していますように、日本認知症学会、日本集団災害医学会、日本小児血液・がん学会を日本医学会加盟検討委員会として推薦し、今年の1月13日の第9回日本医学会協議会に報告して了承を得ました。また、本日、先ほど開催の第12回日本医学会幹事会でも了承

を得られましたので、この第83回日本医学会定例評議員会にお諮りいたします。

評議員会です承が得られましたら、3月15日の第12回日本医師会理事会に報告して最終的に機関決定をすることになります。この3つの学会の日本医学会の加盟を、この評議員会でご承認いただけるでしょうか。どうもありがとうございます。

先ほども申し上げましたように、28の学会から加盟申請があったのですが、同じような研究をしておられる2つの学会がおのおの申請される場合が時々あり、なるべくそういうことは避けて、2学会が一緒になるということを医学会として勧告いたしてきました。日本プライマリ・ケア連合学会の場合も、プライマリ・ケア関係の3つの学会が一緒になってプライマリ・ケア連合学会として加盟していただきました。今回の日本小児血液・がん学会も2つの学会が一緒になって加盟申請をしていただきましたので、学会の加盟の場合に、重複している学会があった場合には、なるべくそれらの学会が一緒になって加盟申請をしていただくほうが有利だと考えています。

次に12ページをご覧ください。日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会。平成23年度に発足した委員会で、遺伝情報の取り扱い、検査の質の保証、提供体制など、主に遺伝子に関する問題を取り上げて検討する委員会です。信州大学の福嶋教授が委員長で、7名の委員で構成されています。

第11回委員会を昨年の7月17日に開催しました。主な議題は遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度、平成25年度から始まった母体血を用いた出生前遺伝学的検査の実施報告状況、厚生労働科学特別研究事業「遺伝情報・検査・医療の適正運用のための法制化へ向けた遺伝医療政策研究」が委員会として検討されました。

この「遺伝子・健康・社会」検討委員会の中の部会として、「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会を設けています。東京都立墨東病院の久具先生が部長で、6名の委員で構成されています。母体血を用いた出生前の遺

伝子検査の施設の認定を随時行っています。

この部会には私も時々出席していますが、母体血の検査でダウン症が陽性と出た人は、次に羊水で検査をするわけです。羊水検査で陽性と出た場合には、ほとんどの方が人工中絶をしておられるという状況が、この部会に出て分かりました。余談ですが。

次に13ページに日本医学会利益相反委員会。委員長は徳島大学名誉教授の曾根先生です。曾根先生はCOIの問題について従来から非常に熱心に取り組んでおられ、日本医学会としてCOIのモデルガイドラインを作りまして、各学会がそのモデルを参考にして、各学会にCOIのマネージメントに関するガイドラインを作っていただきました。また、第1回研究倫理教育研修会、この会は日本医学会利益相反委員会、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、合計3つの委員会の合同シンポジウムでして、COIの問題や研究倫理の問題などについて意見の交換を行いました。

次に13番目の日本医学雑誌編集者組織委員会です。この委員会は平成20年に発足いたしました。委員長は東京大学の北村 聖教授です。委員として8名の方で構成されています。この委員会と、先ほどご紹介いたしました日本医学会利益相反委員会と、日本医学会連合研究倫理委員会の3委員会の合同委員会を昨年5月15日に開催いたしました。各委員長からの各委員会の取り組みの状況の他、研究倫理教育研修会などについてディスカッションが行われました。

第17回の日本医学雑誌編集者組織委員会を昨年の10月26日に開催いたしました。医学雑誌編集のガイドラインについての発行報告のほか、マニラで医学雑誌編集者の会議（APAME）が開かれましたので、その開催についての報告を北村先生がなされました。さらに日本医学会利益相反委員会の活動報告。それから第15回アジア西太平洋地域倫理委員会フォーラム国際会議の報告、第8回日本医学雑誌編集者会議の総会・シンポジウム、第2回研究倫理教育研修会等についての意見の交換が行われました。

次に14番目の研究倫理教育研修会は、日本医学会分科会全体で、研究倫理のあり方、研究倫理問題の予防と発生時の対応について情報を共有し、各分科会員の教育啓発に活かすことを目的として、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会の合同で、先ほども報告いたしましたが、第1回目の研究倫理教育研修会を「医学研究倫理を考える」をテーマとして、昨年5月15日に開催いたしました。その内容は日本医学会のホームページに掲載されています。

このシンポジウムの内容については14ページから15ページに書いていますので、ご覧になっていただきたいと思います。

次の15ページの15番目の移植関係学会合同委員会は、移植関係の学会、厚生労働省、日本医師会で構成されていまして、日本医学会長が世話人になっています。持ち回りで開催することが多くあり、昨年度は肝臓移植実施施設の認定を行っています。各学会ですでに認定を行っており、それを合同委員会で認めるという形になっています。

「日本医学会だより」は資料の後ろに載っていますので、後でご覧になっていただきたいと思います。

情報発信としては、平成10年10月に日本医学会のホームページを開設しています。日本医学会分科会のご協力を得て、本会のホームページと各分科会のホームページとがリンクをしていますので、ご利用いただければと思います。

先ほど横倉会長からもご報告がありましたように、日本医師会と一緒に、たとえば成田にできる医学校については慎重に対応するよというところで、文科大臣のところに行っていましたし、また子宮頸がん予防（HPV）ワクチンにつきましても、要望してまいりました。

HPVワクチンについてはご存じだと思いますが、今の国のほうで疫学的な調査を始めています。大体3年ぐらいかかるという話もありまして、それでは少し遅すぎるのではないかと思います。最終的には厚生労働省の事項ですが、日本医学会としても現状をこのままで放置していると、20年



ぐらい経って、日本だけが先進国の中で子宮頸がんが非常に多いという非常にみっともない状況になります。

会議等の開催数は16、17ページに書いたとおりでして、「その他」の所に分科会の一覧などがありますので、ご覧になっていただければと思います。

その後「日本医学会だより」、日本医学会が医師会と、あるいは全国医学部長病院長会議と一緒にを行いました緊急声明、さらに日本医学会として独自で出したいろいろな声明があります。25ページには「新しい外科的治療の臨床応用に際しては十分な体制の整備を」ということで、内視鏡手術でいろいろな事故があったものですから、この声明を出しました。

最後に『HPVワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き』を、日本医師会と日本医学会で、主に開業の先生方を対象にして出しています。

以上が日本医学会の平成27年度の年次報告です。ご質問、ご意見はおありでしょうか。もしなければ、お認めいただきたいと思います。どうぞ。

**狩野評議員** 日本熱帯医学会の狩野でございます。

項目の9番の日本医学会加盟検討委員会につきまして、手元の資料無番の平成27年度日本医学会加盟申請学会リスト等というものが手元になくて、どの学会が選考されてどうなったか、聞き取れませんでした。

**議長**(高久日本医学会長) 失礼しました。協議事項で、あとでまた協議させていただきます。

**狩野評議員** そうですか。3学会が選ばれた理由と、その他の落とされた学会には、そのフィードバックが戻っているかどうかを知りたいところです。

**議長**(高久日本医学会長) どうも失礼しました。これは協議事項になっていますので、そのときに、いろいろとご意見をいただきたいと思います。それでは、一応年次報告をお認めいただけるでしょうか。どうもありがとうございます。

次に平成27年度の日本医師会の予算の中で、医学会への支出の分についてご報告いたします。

資料6に平成27年度の日本医師会の予算として、医学会の支出の部が載っていますので、ご報告いたします。

平成27年度の予算額は120,434千円です。日本医師会全体で予算の見直しが行われまして、昨年度に比べて日本医学会の予算も12,511千円減となっています。なお予算の見直しは引き続き来年度も行われますが、日本医学会には本年度と同額の予算が認められる予定です。

お手元の資料をご覧になっていただければと思います。この中には医学賞、医学研究奨励賞のお金も入っており、それを含めて120,434千円となっています。よろしいでしょうか。

次に2016年、平成28年度の事業計画について、お手元に2016年の事業計画の書類があると思いますので、それをご覧になっていただければと思います。

1ページ目は先ほど齋藤先生からご報告がありました第30回日本医学会総会の事項です。それから日本医学会シンポジウムも従来どおり2回予定しており、第149回日本医学会シンポジウムは「医学用語を考える—医療者・市民双方の視点から—」がテーマとなっています。医学用語管理委員会で問題になりましたのは、たとえば「呼吸困難」を、介護関係の人達は「呼吸苦」と呼んでいる。同じ医学用語が分野によってばらばらに使われているということで、医学用語管理委員会の委員長をされている脊山先生から、ドクターだけでなく、看護関係、介護関係の方々に呼びかけて、このテーマでシンポジウムを開催したいという要望が出されました。

第20回日本医学会公開フォーラムは6月18日に開催予定で、組織委員長として東京大学の小池先生にお願いをしており、テーマは「肝炎」です。次に、医学用語管理事業。医学用語管理委員会では、『日本医学会医学用語辞典 英和』の第3版1刷(平成19年4月刊行)、『日本医学会医学用語辞典 和英』の第1版3刷(平成14年)を刊行しており、今後の改定は先ほども申し上げましたように、Web上で改訂をし、印刷物としては出さない予定です。この医学用語辞典はWeb版をホー

ムページに掲載しており、医学用語の標準化を進めるために一般公開をしています。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会は平成27年度と同様に、日本医学会に委託されて選考することになると思います。また日本医学会加盟検討委員会も、委員の方は少し変わりましたが、久道先生を委員長として加盟の検討を行う予定です。

日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会、「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」の施設認定・登録部会、日本医学会利益相反委員会、日本医学会分科会利益相反会議、ならびに5ページ目の日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学雑誌編集者会議、研究倫理教育研修会、移植関係学会合同委員会などは平成27年度と同じように開催することになっています。さまざまな委員会の開催の予定につきましては、6～7ページをご覧ください。

以上が、平成28年度の事業計画です。これは協議事項になっていますので、平成28年度の事業計画について、どなたかご質問とご意見があればと思います。なければお認めいただきたいとします。どうもありがとうございました。

先ほどご質問にもありましたが、私がうっかりしてしまっていて、協議事項の平成27年度日本医学会加盟学会の件ということで、資料を今配っています。先ほども申し上げましたように、5月15日に新規加盟申請の公示をいたしまして、7月31日の締め切りまでに28の学会から加盟申請がありました。

最初に書面審査をすることになっており、13名の加盟検討委員会の委員によって書面審査を行いまして、11月13日に第1回検討委員会が開催さ

れ、書面審査を通過した学会につきまして審議の結果、お手元に配付していますように、3つの学会の加盟が加盟検討委員会として推薦されまして、1月13日の第9回日本医学会協議会に報告して了承を得られました。本日開催されました幹事会でも了承を得られましたので、本日の評議員会にお諮りする次第です。

この日本集団災害医学会、日本小児血液・がん学会、それから日本認知症学会の3学会の加盟について、ご意見があれば、どうぞお申し出いただきたいと思います。先ほどご質問された方、よろしいですか。

**狩野評議員** はい。

**議長**(高久日本医学会長) 加盟検討委員会は久道先生をお願いしてしまっていて、検討の詳細は分からないのですが、加盟に際しての手引きがありまして、その中に加盟の条件がいろいろ書いていますので、おそらく書類審査で、まずこの条件に合うかどうかを検討して、その中から選ばれた学会を会議の場で、最もふさわしいというか、医学会の加盟に値するというので、平成27年度は3つの学会を検討委員会として推薦することを決めました。幹事会でご了承いただきましたので、この評議員会でもお認めいただきたいとします。よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

これで一応私たちが用意した資料の説明は終わりましたが、何かご質問、ご意見があれば、お伺いしたいと思います。よろしいでしょうか。それでは、これもちまして本日の定例評議員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。